

ずいひつ No.91

2013年10月25日発行

なごやの登録有形文化財建造物「愛知学院大学楠元学舎第1号館」

登録有形文化財建造物とは？

50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財として登録しています。

届出制を通じて保存が図られ、活用が促されています。住宅や店舗、鎮守社、お堂などから、工場や駅舎、トンネル、ダムなど幅広く数多くの建造物を対象としています。(文化庁HPより 一部省略)

「愛知学院大学楠元学舎第1号館」は1997年10月17日に登録有形文化財に認定されました

今年で85歳！

1928年に「旧制愛知中学」の本館として建てられました。一見レンガの様に見える外壁はスクラッチタイルという素材で、昭和初期に流行したものです。現在では蔦が絡まり、長い歴史と伝統を感じることができます。

中央部は玄関ポーチが設けられています。壁を立ち上げ正面性を強調し、左右に翼屋をのばす構造となっており、正面に3つ並ぶアーチ型の窓が昭和の雰囲気漂わせています。

名古屋生まれの佐藤三郎氏(1896-1974)の設計です。また、登録はされていませんが、愛知学院大学大学院歯学部研究棟として使用されている「旧昭和塾堂」は1929年に建てられました。

なごやの登録有形文化財建造物

名古屋市内には76の建造物が登録されています。

(2013年7月現在)

登録された建物は右のプレートが証となります。このプレートを探しながら、レトロで歴史ある建物を見て歩くのも面白いです。

<主な登録例>

- ・「テレビ塔」
- ・「愛知県庁本庁舎」「名古屋市役所本庁舎」
- ・千種区 → 「日泰寺」「松楓閣」
- ・学校建物 → 「名古屋大学 豊田講堂」(千種区)
「南山学園 ライネルス館」(昭和区)
「金城学院高等学校 榮光館」(東区)
「東海学園 大講堂」(〃)

「愛知学院の歴史本」所蔵あります

今月の「ずいひつ」執筆に際して、図書館に所蔵されている愛知学院の歴史に関する図書を参考にしました。

図書館2階カウンター前の棚にあります。大学周辺の昔の航空写真も載っているので、町の移り変わりが見られて興味深いです。図書館利用の息抜きに、自身の通っている大学について知るのも良いかもしれません。(図書館文化委員H)



「目でみる愛知学院120年」より【請求記号】093.7/2



登録有形文化財の証となるプレート(文化庁)

「愛知学院130周年」より【請求記号】093.7/6